

第6学年 社会科学習指導案

1 単元名 「明治の国づくりを進めた人々」 (東京書籍)

2 単元について

○ 本単元は、学習指導要領の内容(1)キ「黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること」を受けている。明治維新になり，廃藩置県や地租改正などの諸改革を行い，近代国家としての政治や社会の仕組みを整え，我が国の近代化が進められてきた。それらを成し遂げていく中に，大久保利通や板垣退助など国づくりに活躍した人物の願いや思いに迫り，歴史事象を多面的に読み取る力やこれからの日本の在り方について考える力を高めることをねらう。

明治維新では，外国の政治や文化を取り入れ，国際的地位の向上を意識して，世界の列強国と対等になるまでに国力を押し上げようと努力した。また，地租改正，徴兵令，殖産興業などにより不平等条約改正に向けて国民の生活を統制し，富国強兵策を急速に強化した。一方で，現代の日本は，世界の国々と平和を維持していくこと，国内では高齢化及び少子化社会の中で，生活を安定させることを課題として，様々な政策を図っている。2つの時代を比較すると，「国家」と「国民」という立場での思いや願いに類似点が見られる。このことから，本単元は，明治維新时期の日本の政策に対して評価させることで，これからの日本の在り方を考えさせることができる教材であるといえる。

○ 6年生で始まった歴史学習について，本学級の児童は興味深く学んでいる。教科書や資料集の内容だけではなく，歴史人物のエピソードを交えて学ぶことで，時代と時代のつながりや，歴史の奥深さに触れることができている。絵画資料を用いることで，当時の様子を想像できるようになった。これにより，意欲的に発言する児童が増えた。しかし，「大仏を作るといふ政策はよかったのか？」「戦国3人武将の中で，民にとって一番貢献した武将は誰だ？」など，論題に対して自分なりの答えや考えをもつことは苦手である。

○ 本単元では，現在の日本の状況から明治維新时期の政策について検討し評価させることで，維新时期の日本の在り方を基にして，これからの日本の在り方について考えさせたい。

そこで，まず，江戸時代後期から明治維新时期の社会の変化に興味をもたせたい。次に，日本の近代化へ向けた政策とその成果や課題，それに加えて，政策を推し進めた人物の願いや思いを関連付けさせることで，明治維新时期の近代化を捉えさせたい。最後に，現在の日本の状況と明治維新时期の日本の状況を照らし合わせ，明治維新时期の政策を評価させることで，これからの日本の進むべき日本像を考えさせたい。

これまで歴史分野を指導するに当たり，どうしても歴史事項を教え込むことが多いと感じて指導している。そのような日々の授業の中で，本時のように政策評価を通して日本の社会の在り方を「予想できる社会の状況」という形で表すことにした。児童に明治期の社会の状況を想像させることは難しい。なぜなら，これまでの指導の中で，現代の社会の状況を把握させることに多くの時間が必要だったからである。しかしながら，今の時点では大きな成果はなくとも，1つ1つの学習の積み重ねが中学校において成果として現われるのではないかと期待して，1学期から社会の状況を予想させる指導を続けてきた。したがって，的外れのような予想でも大切にしたり，予想できない場合は教師の発問を通して「予想される社会の状況」を出させたりしたい。

終末の振り返りでは，江戸時代から明治時代へ，明治時代から現代へとつないで考えていること，明治時代の枠内で社会の在り方について考えていること，政策を評価することの大切さ面白さを感じていることなど，歴史分野の中の社会形成型社会科の醍醐味を味わってほしいと願っている。

3 単元の目標

江戸時代から明治維新时期における日本の姿について資料を活用して調べ、新政府が行った政策による社会の変化とそれらの政策に込めた人々の願いが分かり、明治維新时期の日本の変化を政策から評価することで、これからの日本の在り方について、根拠を明確にした自分の考えを表現できるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○黒船の来航, 明治維新, 文明開化, 大日本帝国憲法の発布とそれに関わる人物の働きに関心をもち, 意欲的に調べている。 ○歴史を学ぶ意味やよりよい社会の在り方について考えようとしている。	○幕末, 明治維新, 維新後の日本の状況や政策, それに関わる人物の働きや願いを考え, 追究している。 ○社会の変化が大きい日本の在り方について自分の考えを言語などで適切に表現している。	○文化財, 地図や年表, その他の資料を活用して, 幕末, 明治維新, 維新後の日本の状況や政策, それに関わる人物の働きや願いについて必要な情報を集め, 読み取っている。 ○必要な情報として調べたことを図や表にまとめている。	○我が国が欧米の文化を取り入れつつ, 諸政策を行い, 近代化を進めたことや, それに関わる人物の働きや願いを理解している。

5 単元計画 (全7時間 本時6/7)

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題を つかむ	○江戸時代の寺子屋と明治時代の小学校の絵図を見て, 相違点を見付ける。 ○黒船来航から国内が混乱して, 若い武士たちが江戸幕府を倒すまでの様子について調べる。	○絵図にある先生の服が洋服であることなどから, 明治時代の特徴として, 欧米化したことに気付かせる。 ○外国からの圧力で不平等条約を結ぶことになったことをきっかけに, 倒幕と新政府創設への流れを, 西郷, 大久保, 木戸の働き掛けや願いとつなげさせ, 時代の変化を意識させる。	・江戸時代から明治時代への変革について絵図を基に気付いたことや疑問に思ったことから, 学習のめあてをもっている。 【関】	1
	明治時代になり, 世の中はどのように変化し, どのような人物が活躍したのだろうか。 《学習問題I》			
	○欧米で学んだ大久保利通らが, どのような国づくりをしたのかを調べる。	○富国強兵を成し遂げようと, 官営工場, 徴兵令, 地租改正を行い, 西洋化と国力増加を推進したことに気	・明治の諸改革を関連付けて考え, それに関わる人物の働きや願いを自分の言葉で	1

調 べ る	○江戸時代の世の中の様子と明治の世の中の様子の違いを「日本橋近くの様子」の絵図から調べる。	○維新の政策により、人々の暮らしも西洋化し、文明開化といわれる急激な変化について、絵図を基に捉えさせる。	説明することができている。 【思】 ・絵図から、明治の世の中の変化を読み取っている。 【技】	1
	○政府の改革に不満をもつ人々の行動について調べる。	○西南戦争のような反乱から、言論による主張へと変化し、国民の意思を反映させるために国会開設へと動く流れを、西郷隆盛と板垣退助を中心にまとめさせる。	・国民と板垣退助の願いが自由民権運動へとつながることが分かっている。 【知】	1
	○伊東博文が作った大日本帝国憲法と明治政府の国づくりについて調べる。	○維新終末として、大日本帝国憲法制定と国会の仕組みを調べさせることで、伊藤博文を中心に、どのような国づくりを行ったのかを捉えさせる。	・大日本帝国憲法と国会開設について資料から読み取っている。 【技】	1
考 え ・ ま と め る	○明治維新时期の日本の状況を整理し、現代における日本の状況と合わせ、明治維新は成功したかどうかについて自分の考えをもつ。 (意思決定1)	○明治維新による日本の様子と江戸時代の日本の様子を整理させる。 ○平成維新时期といわれる現在の日本を、明治維新时期の日本を例として、改革推進の是非の討論へと促す。	・明治維新时期の政策が成功か失敗かについて、自分の考えを適切に表現している。 【思】	1 本時 (6/7)
	論題 明治政府の政策は、成功、失敗のどちらであろうか。《学習問題Ⅱ》			
	○討論により、明治維新の政策の成功か失敗かを考えることで、現在の日本の改革推進の是非について、自分の考えを見直す。 (意思決定2)	○明治維新时期の政策と社会の状況を整理し、「国民」、「政府」の立場から明治維新时期の政策について成功か失敗かの意見文を書かせる。	・日本が進むべきに方向について、自分の考えを見直し、適切に表現している。 【思】	1

6 本時の目標

現在の日本の状況を考えるために、明治維新期の政策の成功か失敗かについて自分の考えをもち、表現することができる。

7 展開(全7時間 本時6/7)

学 習 活 動	教師の働き掛け (○) と評価 【】												
1 学習のめあてをもつ。	○前時の振り返りから、これまでの学習内容のおさらいをさせる。 ○本時で学習することのねらいを前時とのつながりから確認させ、めあてを共通化する。												
めあて 明治維新の政策のメリットとデメリットを整理しよう。													
2 政策評価をする。 ① 明治維新期の政策を出す。 ② 政策のメリット(よい点)とデメリット(問題点)を整理する。	○明治維新期の政策を問い、政策を行った理由を想起させる。その際、予想できる社会の状況を付け加える。 ○メリットやデメリットは、既習内容だけではなく、政策から予想される効果、予想される悪影響を加える。その際、予想には「予」の印を付け、既習内容と混同しないように配慮する。 ○板書やワークシートは、メリットやデメリットを比較させやすいように、政策評価表にしてまとめさせる。												
予想される政策評価表													
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>メリット(よい点)</th> <th>デメリット(問題点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地租改正</td> <td>税を物ではなく現金にしたことで、 ・国のお金がいやすくなった。 ・計画を立てやすくなった。</td> <td>・職業によってお金が儲からない場合、広い土地をもつていて税金を払うことに苦勞する。 ・税金で生活が苦しくなる。</td> </tr> <tr> <td>徴兵令</td> <td>強力な軍隊をもつことができるので、 ・日本を守ることができる。 ・内乱をすぐに鎮めることができる。</td> <td>・不本意でも戦争に行かなければならないことになる。 ・死んでしまう可能性が高くなる。 ・父親が死ぬと、生活が苦しくなる。</td> </tr> <tr> <td>殖産興業</td> <td>工業、商業の発展で、 ・いろいろな物を作ることができる。 ・技術が向上する。 ・生活が楽になる。</td> <td>・商品開発、商品作りに一生懸命になると、安い給料で働かされることがおきる。 ・公害が発生し、病気になりやすくなる。</td> </tr> </tbody> </table>		メリット(よい点)	デメリット(問題点)	地租改正	税を物ではなく現金にしたことで、 ・国のお金がいやすくなった。 ・計画を立てやすくなった。	・職業によってお金が儲からない場合、広い土地をもつていて税金を払うことに苦勞する。 ・税金で生活が苦しくなる。	徴兵令	強力な軍隊をもつことができるので、 ・日本を守ることができる。 ・内乱をすぐに鎮めることができる。	・不本意でも戦争に行かなければならないことになる。 ・死んでしまう可能性が高くなる。 ・父親が死ぬと、生活が苦しくなる。	殖産興業	工業、商業の発展で、 ・いろいろな物を作ることができる。 ・技術が向上する。 ・生活が楽になる。	・商品開発、商品作りに一生懸命になると、安い給料で働かされることがおきる。 ・公害が発生し、病気になりやすくなる。
	メリット(よい点)	デメリット(問題点)											
地租改正	税を物ではなく現金にしたことで、 ・国のお金がいやすくなった。 ・計画を立てやすくなった。	・職業によってお金が儲からない場合、広い土地をもつていて税金を払うことに苦勞する。 ・税金で生活が苦しくなる。											
徴兵令	強力な軍隊をもつことができるので、 ・日本を守ることができる。 ・内乱をすぐに鎮めることができる。	・不本意でも戦争に行かなければならないことになる。 ・死んでしまう可能性が高くなる。 ・父親が死ぬと、生活が苦しくなる。											
殖産興業	工業、商業の発展で、 ・いろいろな物を作ることができる。 ・技術が向上する。 ・生活が楽になる。	・商品開発、商品作りに一生懸命になると、安い給料で働かされることがおきる。 ・公害が発生し、病気になりやすくなる。											
社会的な問題 (研究や論争の材料となる事件) 「明治政府は、『国家の利益』を優先した政策を行ったこと」	○立場を考慮した意見になるように、「政府」、「国民」などの立場を明確にさせことで、社会的な問題に気付かせる。 ○デメリット重視の「国民の生活」優先の考えをもつ児童が多いと予想できることから、「なぜ、開国したのか?」「再び鎖国を行うのか?」などの揺さ振りを掛け、「政府」優先の立場を考慮させ、論題を導き出す。												
論題 明治政府の政策は、成功、失敗のどちらであろうか。《学習問題Ⅱ》													
3 明治維新期の政府の政策について、成功か失敗かの考えを記述する。 ① 個人で考え記述する。 ② 友達と意見交換をする。 ③ 再度、個人で考え、記述する。 (意思決定1)	○考えをまとめる前に、政府の評価を口答で出し合わせ、立場を意識した理由で考えをまとめるように促す。 【評価】 ○板書を基に書くことだけではなく、これからの日本の在り方について考えるきっかけとなるように、自分が予想できる日本の状況についても理由として書くこと												

4 学習のまとめをする。	を奨める。 ○前時よりも自分の考えに深まりができたことを賞賛し、今後の学習に期待感をもたせる。
--------------	--

8 本時の評価

本時の評価規準	現在の日本の状況を考えるために、明治維新期の政策の成功か失敗かについて自分の考えをもち、表現している。 (社会的な思考・判断・表現)		
判定基準 (判断のめやす)	「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)
	明治維新期の政策に対し、明確な根拠と予想できる社会の状況などを踏まえて、成功または失敗の考えをもつことができる。	明治維新期の政策に対し、根拠を明確にして、成功または失敗の考えをもつことができる。	(B)に達していない記述
→(B), (C)と判断した児童への支援策		→自分が予想できる日本の状況についても理由に付け加えることができれば、更に考えが深まることを伝え、付け加えを奨める	→板書を基に、日本の状況を「よい」とみるか「問題あり」とみるかの判断をさせ、理由も書かせるようにする。
評価方法	ワークシートの記述		